

## 黒沢・大滝不動堂の不動明王像 ～その2～

先月号で黒沢・大滝不動堂から新たに見つかった中世の不動明王像について紹介しましたが、もともとこの不動堂には江戸時代に造られた1 軀の不動明王像が安置されていたことが知られています。

その像は頭や胴体などの基本部分を複数の別儀を寄せ合わせて造る「寄木造り」で、眼には水晶で造られた「玉眼」がはめ込まれており、彩色がなされています。

いつ頃に造られたかについては、不動堂に置かれていた板に墨書が残され、享保2年（1717）に黒沢村が主体となって不動明王像を造立したとあります。様式・作風から見てこの木像の製作年代と食い違わず、墨書に書かれている不動明王像が本像にあたるのではないかと考えられます。おそらく当初の中世に造られた像の保存状態が悪くなったため厨子に納め、新たに造立した像をその前に安置したのではないのでしょうか。

全体的に素朴で地方色が強く、当地で制作されたものと考えられ、後ろ髪を長く垂らし、渦を巻く髪型は独特です。

なお、『新編会津風土記』にはこの大滝不動堂について「境内の大きさ東西3間、南北5間、税の免除地、大滝の東20間のところであって、いつ作られたかは分からない。黒沢村民の所有である。」と記載されています。



江戸時代に作られた不動明王像



大滝不動堂

### 今月の表紙

今月は、特集でも取り上げた移住者インタビュより、岡田さんが経営しているカフェ「CHAMISE」の落ち着いた雰囲気の内店で、お話を聞かせていただきました。

(2ページから関連記事)

### 編集後記

今月号では多くの方々インタビューにご協力いただきました。本当にありがとうございます。今回は、インタビューした内容の文字起こしをまちなか再生拠点施設「にぎわい番所ぷらっと」でやってみました。町役場の事務室とは違った雰囲気の中で仕事をするのは新鮮で、いいリフレッシュにもなりました。

にぎわい番所ぷらっととは、事前に申請をすれば誰でも利用できる施設です。サロン活動や会議、ちょっとした集まりなど、使い方もさまざまです。ぜひ気軽に利用してみてください。(秦)